

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2021夏 No.110



窯変白磁を育てる

塩江の奥にその登り窯はあった。水道もない山の工房にひとり籠って15年間。白い磁器を成形し薪で焼く。多くの失敗を繰り返しながら、独自の窯変の美を追求してきた。讃岐の陶芸家、田淵太郎さんの作品は近年全国的にも認知されて、作品の完成を待つ人は多い。

- 五人様茶会「流水無間断」
 - 特別寄稿 塩江町 ガソリンカーで町おこし
 - 特別寄稿 雅の世界・香道
- 6月から8月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2021年夏号 No.110 6月1日発行(季刊)



流水無間断

日本の幽玄な美意識を語る谷崎潤一郎の随筆「陰翳礼讃」が、西洋化した住宅事情の変遷で懐古的な一文になった現代において、今なおそれを体現するものが茶室だと思っていました。が、昨年来の新型コロナウイルス感染症予防対策で換気のために障子窓を開けたままになり、茶の湯も妙に明々とした一座建立になりました。

他にも、空気清浄機、一畳二人座りや間隔たつぷりな立礼席などのソーシャルディスタンス、検温やアルコール消毒、マスク着用など気遣いながら、三月七日(日)、濃茶席を裏千家 山本宗佳先生、薄茶席を山本宗健先生親子にご担当いただき財団月釜・五人様茶会を催しました。



寄付待合の床「富士山遠望」は狩野守常が残雪の富士に霞にまがう桜や西行法師を描き添え、まさに春の広がり…。

菓子席では銘々皿に奈良東大寺二月堂のお水取りを荘厳する造花を模した菓子・糊こぼし(御堂椿・富久屋製)。全国的に有名な古都の春の風物詩菓子も奈良以外で目にするのは珍しく、また、美しい形に感謝して「食べるのがもったいないね」の声でうちとけ、織部床の淡々斎「室閑茶味清」の軸を前にしても「しつかんにして ちゃみきよしでしょうか、しつのどかにして ちゃみすがしでしょうか」と、読み方の素人談義がはずむなどして和気あいあい、小間濃茶席への順列もあっさり決まって進みまし

た。

まぶしいほどの春の陽光が蹲踞の水面をキラキラさせるのを眺めながら、躊躇り口から身をかがめて美藻庵に入ると、床の鵬雲斎筆「流水無間断」の軸。掛物ほど第一の道具はなしと南方録の記述に沿って、流儀の心を鮮明にして、また、揮毫の文言にある「絶え間なく無心に流れる水」に、己の茶の道を絶やすまじという精進の思いを重ねたという亭主の心、さらに、天平の昔から続く修二会の家国安泰の祈りにコロナ平定祈願をこめたという茶席のテーマが披露され、ここから亭主の心遣いが形になり動きとなって現れていきました。

床の一重切の花入に生けられた胡蝶侘

助が糊こぼしの花の色具合、赤膚焼の春日燈籠をかたどった香合が法会の行われる奈良という場所柄を改めて思わせませす。

主客の挨拶が済んで点前になりました。幕末の釜師・大西十一代浄寿の万代屋釜は柚子肌の柔らかさが時代の古さを語ります。姿は線口の尾垂。炉中の隙間からほこった炭火の朱赤が鮮やかに見えて、先ほどの湯のたぎる音を納得させます。今回のように、次々と席を入れ替える形式の茶会で、常にベストな炭具合を保つにはさぞかし神経をつかわれることだろうと、隅々に行き届いた気遣いがあればこそその松籟であり、湯気の漂いと感じ入りました。

モダンな仕覆（カピタン裂）を紐解いて松蔭の銘を持つ瀬戸茶入から、お水取り行事に欠かせぬお松明の竹材を東大寺長老が削ったという茶杓に掬われた茶が練られました。余談ながら、二月堂へ一気に駆け上る火の玉みたいな松明を舞台で火振りするさまは、本来、法会の練行衆が登壇する時の足元の明かり火ですが、厄災を焼き尽くすような迫力を感じさせますよね。

いつもなら濃茶の深い緑が手から手へというところですが、コロナ対策で回し飲みではなく各服の一人点にしましたと、水屋からも濃茶が運ばれ、正客は楽旦入、次客は田原陶兵衛、三客には中里

重利の茶碗と続き、まさに、一茶二萩三唐津と「くにもの茶碗」の王道が揃いぶみ。茶筌通しの湯をこぼした建水の形は単瓢、作者は宮崎寒雉と目を追って披露が重なっていききました。

濃茶が練られる間の無言が解かれて会話が弾み、時計のない茶室と水屋、間合いの取り方にご苦労があったことと思われませんが、客の動きに合わせたやわらかな応対をいただいているうちに、次の座敷、薄茶席へと案内があり、道具の美のお披露目が続きました。

この床には「春水満四沢」の一行。陶淵明の詩の一節、禅語的な解釈もありそうですが、中国古代の田園詩人が文字

に写した江南の春です。雪解けの水が大河・揚子江に流れて平原を潤し、一面の緑に風が渡り、花が咲き、鳥が飛び交う…、豊かな光景を映した五字の墨蹟が鮮やかに色めき出します。

点前畳に奥村吉兵衛の風炉先屏風、その前に当代家元坐忘斎お好みの佳辰棚が定まって、華奢な御所風の勾欄が三方を囲み、天板木端に四神の玄武が小さく光って、ちよつと反った聖脚が高雅な雰囲気をもっています。そこに永楽即全の染付竹絵水指。蓋置は三つ人形ですが、これが、定石の後手組み三人ではなく、互いの顔を確かめるように前手を互いに組んで、それぞれの衣装が何ともカラフルで楽しそう。官職を辞した隠遁の文士（陶淵明）が友人の道士と共に、仏門の僧を訪ねての帰り道、別れを惜しむ語らいに興じてうっかり禁界を越えてしまったという虎溪三笑の故事にちなんで銘は虎溪三笑と説明があり、世を捨てて自由を満喫する三人の「いやあ、どうも、どうも」と笑い合うさまが伝わり、室内も皆笑の和やかさに満ちました。

角谷與斎の姥口平丸釜に沸く湯で点てた薄茶を喫した正客が相好をくずした主茶碗は、三輪壽雪（人間国宝十一代休雪の隠居名）の鬼萩の逸品。独特の粘りの強い釉・休雪白のどつぱりした豪快さや、がっしりと十字に切った割高台を愛でる主客に、亭主から嶺の雪と銘が披露され、一同改めて床の字句である春水の源を連想、振り向くように確かめた床に、

人間国宝藤原雄の備前花入にすつと生けられた朱木蓮と立金花が何とも鮮やかでした。若い亭主のドラマチックな演出を堪能して、席は次に。

立礼形式の点心席で、社中のみなさんから料亭二蝶製の点心（軽い食事）でもてなしていただきました。床の絵は「江南の春」と題した柳絵で、宗佳先生が高松市の友好都市である南昌市を訪れた時の記念とか。

濃茶席が醸した春のきざしや薄茶席が広げた田園風景、それぞれの和漢のさまが席主の訪中の思い出という現代に集結されて茶会が終了しました。



塩江町

ガソリンカーで

町おこし



塩江温泉郷は、かつて高松の奥座敷と言われた観光地であった。今も道の駅や、隣接の温泉施設「行基の湯」は、賑わっており、塩江美術館では、アーティストの個展を中心に人を集めている。地元の人たちが蜚の飼育にも力を入れていて、これからの季節はとも楽しい。そんな中で、過去の記憶を大切にしたい、新しいプロジェクトが始まっている。

塩

江温泉鉄道は、昭和4年(1929)～昭和16年(1941)までの12年間、高松市の仏生山から塩江間で開通し、ガソリンを燃料に走ることから「ガソリンカー」と呼ばれ、県民に親しまれた。

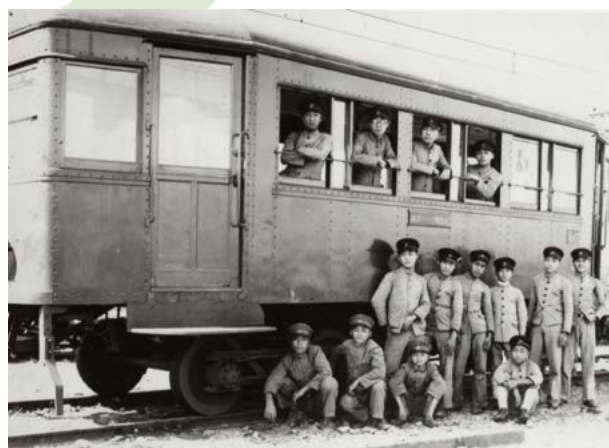
琴平電鉄は阿讃国境と塩江温泉郷開発のアクセスのため、昭和3年(1928)8月21日に塩江温泉鉄道(株)を設立し、翌年の昭和4年(1929)11月12日に仏生山～塩江間(16・1キロメートル)を開業した。社長は琴平電鉄の社長である大西虎之介が兼務した。この鉄道は非電化の鉄道では唯一広軌を採用した内燃鉄道であった。琴平電鉄が広軌であったため、琴平電鉄からの貨車直通を念頭においてであったが直通運転は実現されなかった。開業に合わせて新造された車両

5輦は川崎車輛が手がけた初のガソリンカーであった。以後廃線までこの5輦のみで営業された。

ガソリンカーはマッチ箱ともいわれ、定員40名。運賃は仏生山～塩江間40銭であった。

塩江温泉では、琴平電鉄が塩江温泉(株)を設立し、演芸場付きの温泉旅館を経営した。専属の少女歌劇団を養成して「四国の宝塚」として売り出し、定期的に催物を企画して運賃割引を行うなど積極的に営業活動を行なった。しかし当時の経済不況もあり経営は苦しく塩江温泉鉄道は昭和13年(1938)7月6日付けで琴平電鉄に吸収合併され、琴平電鉄塩江線となった。

しかし、琴平電鉄に吸収された後も営業好転の目途がたらず、燃料であるガソリンの統制が厳しくなるなど営業がますます困難となり、塩江線は開業からわずか12年後の昭和16年(1941)5月10日に廃止された。廃止後、レール等の鉄道施設は台湾製糖株式会社に売却された。車両は満州に渡り、新京(現在の長春)市電となった。



ガソリンカーで高松市内へ通学の学生たち

廃線跡は、仏生山駅から香川町浅野にかけては市道となっており路線がガソリンカーであったため「ガソリン道」として親しまれている。また、廃線後80年を経た現在でも多くのトンネルや橋脚などの遺構が残っており鉄道ファンの注目となっている。

安原文化の郷歴史保存会広報

藤澤 保

ガ

ソリンカー復元実行委員会は、2018年3月に塩江町地域おこし協力隊の村山淳と、塩江美術館学芸員の小田有紗(どちらも肩書きは当時)によって始められました。企画段階から香川大学創造工学部造形メディアデザインコースと香川高等専門学校の協力を得て、その目的は塩江温泉鉄道を歴史的、文化的遺産と捉えその調査を行うことでした。2018年秋には国立公文書館での調査をもとに香川高専生が失われていた車体の設計図を発見し、それを基にして精巧な3Dプリンタ模型を製作しました。2019年には実寸大模型製作に着手、それまで製作していた模型や遺構探索マップと資料調査の結果と合わせて、「塩江温泉鉄道―風景と記憶―」を、塩江美術館にて開催しました。2020年以降も塩江の町おこし団体「一般社団法人トピカ」が引き継ぐ形で活動は続いており、実寸大模型の作り込みやグッズ製作、Nゲージジオラマの製作、鉄道関係者へのアピールなどを行なっています。

ガソリンカー復元実行委員会の目的は大きく分けて2つあります。まず1つ目は、ガソリンカーを「歴史のハブ」(hub)「ネットワークの中心点」として塩江町の近代史の中に再配置することです。塩江町は江戸時代から明治初期にかけて阿波―讃岐間を徒歩で移動する際に重要な宿場町であり、交易地でした。しかしながら、現在に至るまで、徐々に交通の速度が上昇、人が1日に移動できる距離が



第四香東川橋梁を走るガソリンカー

大幅に増加したことにより、宿場町としての重要性が低下しました。また、借耕牛などに代表される経済交流の形が大きく変化したこともあり、それまでの産業構造も激変せざるを得ませんでした。非常に大雑把ですが、このような流れを受けて塩江町の中心産業は、それまでの自然な人の流れの結節点としての宿場町から、人を呼び込む観光業へと変化していったと私は考えています。そしてガソリンカーは、その歴史の転換点の終盤であり、中心的な役割を担いました。このエポックメイキングな鉄道は、それを目にしたことのある町民には鮮やかな記憶としていまも残り、「華やかな温泉郷、塩江」を示す最も大事なアイコンとなっていたことが、私たちが実施してきた町民へのインタビューからも伺えます。それまで徒歩が移動の中心で、馬車や自動車などに乗る機会もそれほど多くなかった住民からすれば、香東川の縁をゆつく

りと走る鉄道は斬新で、町の変化を告げる風景であったことでしょう。

人々が日々繰り返し見る風景、そしてその風景の劇的な変化は人々の時代の認識に重要な影響を与えます。私たちが展覧会のタイトルにした「風景と記憶」は、歴史的にこのことを証明した本のタイトルから借用しました(サイモン・シャーマ『風景と記憶』)。塩江温泉鉄道、ガソリンカーは塩江が歴史の転換点を迎えた地点を象徴すると同時に、人々が歴史を認識した地点をも表しています。ガソリンカーに乗ったことのある人たちに「ガソリンカーとはあなたにとってどんなものでしたか。」と聞いたとき、返ってくる言葉はただの鉄道の印象ではなく、その人たちの幼少期にどのような時代の変化が見えていたかという風景の話であり、同時にその変化をどのように感じていたかという記憶の話なのです。実際に、お話をしてくれた人たちはガソリンカーの記憶に紐づけて、大滝山に虫を取りに行った記憶、戦争にいく兵士たちが乗るガソリンカーを見送った記憶、線路に耳をつけて遠くの鉄道の音を聞いた記憶、そういった物語を語ってくれます。そのひとつひとつが塩江の歴史のネットワークを構成する一筋の紐であり、塩江の歴史を伝えてくれる大切な結びです。それを私たちは「歴史のハブ」と呼び、改めてその鉄道の歴史を人々の表象から実際のハードウェアの構造まで選り好みせず研究することにより、塩

江町の歴史を再構成することが、私たちの活動の1つ目の目的です。

2つ目の目的はその「歴史のハブ」をこれから町作りに生かすことです。これには単純に、成果物を観光資源とし、塩江町に興味を持ち、来訪してくれる方を増やすという意味も含まれます。実際、2019年の展覧会では1ヶ月間での来場者数は2364名と、塩江美術館では記録的な数の方々にいらしていただきました。またメディアの露出も高く、ガソリンカーを通じて塩江に興味を持ってもらうという点においてはすでに一定の成果がでています。しかしながら、この「客寄せ」としての活用はどちらかというと副次的なものです。私たちは、上述したガソリンカーを介して眺める当時の人々の記憶からこれからの町づくりの方向性を定めるということを主眼において活動しています。

長いトンネルを穿つ工事をする際に、暗い土の中で自分たちがいまどの位置にいるのかを確認するため、それまで掘ってきた道を正確に計測することがあるそうです。「前に掘り進むために、通ってきた道をじっくりと眺める。」未だ定まらない町の形を定めていくために、私たちは歴史というこれまで先人が穿った道をガイドラインにしています。人々が魅力に感じる「塩江の風景」とは何なのか、経済という岩盤の制限を受けながらも塩江が目指しうる産業の形は何なのか、こういった具体的なことから、私たちが意

識することのできない深層のイメージが惹起する「風景と記憶」という形而上的なことまで、ガソリンカーは示唆に富んだ道標となります。歴史というテクスタイル全体を意識しながらも、それを織りなす一本一本の糸を見つめることにより、私たちはその地域の未来の見通しを立てることができるのです。

塩江温泉鉄道・ガソリンカー復元実行委員会は今後も地道に活動を続けていきます。これからもジオラマや実寸大模型など、目に見える成果は県内のメディアに出ることがあると思います。ですが、華々しい成果だけでなく、その過程で得た知見から私たちがどのような地域づくりをしていくのか、そちらにもぜひ注目いただければ幸いです。

一般社団法人トピカ
代表理事 村山 淳



活動に関する詳しいお問い合わせは、ウェブサイト(<https://topica.or.jp>)のお問い合わせフォームか、info@topica.or.jpまでご連絡ください。

雅の世界・香道

御家流香道・香雲会

代表 野田法子

日本には、茶道、華道、と並ぶ三芸道として香道があり、ともに一定の作法が伝統文化として継承されていますが、千年を越す伝統文化「香道」は、茶道、華道に比べ、一般的ではないかもしれせん。しかし、コロナ禍で生活の質を重視し、ゆっくり時間を過ごす人たちの間から、香りを楽しむ文化が見直されてきたようです。

香の歴史は古く、六世紀半ば、中国から仏教とともに伝来し、古い文献によれば六世紀末に日本へ香木が漂着したと伝えられています。その香木は「沈香」で、その当時の香の用途は、宗教儀式用として、主に仏前を清めるためだったそうで、香は仏教とともに伝わり、仏教とともに広がったと言えます。

八世紀には唐より渡来した鑑真和上によって多くの仏典とともに香と薬を調合する方法が伝えられ、九世紀ごろ（平安時代）になると、仏事を荘厳にする「供え香」から、宮中や貴族の間では独自の香を調合し、衣服や髪に焚き込める「薫物」が広がり、教養・生活を楽しむために使われました。

「源氏物語」には、源氏が女君たちに



が、人によって深さ浅さができるのも面白いと、斎院・紫の上・花散里・明石の上から届いた香を、兵部卿の宮と評し合い、ここで源氏は火取り香炉を取り寄せて「折よく雨で夕じめりしていますから、香を聞くのにふさわしい」と言っています。香は嗅ぐと言わず「聞く」というのは香道独特のことばで「聞香」と言います。

香の調合のよしあしで、教養や人柄が偲ばれた平安期の香の文化は、武家の台頭により、足利八代將軍義政の援助で、それを取り巻く文化人たちが、香木の觀賞を中心とする新たな香の文化を創り出し、江戸時代に入ると、現代に見られるような「香道」の文化の基礎が完成したと言われています。武家社会の中に浸透し、家元制度も確立され、十八世紀になると香道人口は武士・町人・農民層まで広がったのです。文化・文政期には女性層にまで広がり、料理、裁縫、茶道などと並び、身につける教養の一つだったとも言われています。明治維新の文明開化で危機を迎えましたが、伝統文化としての「香道」は絶えることなく受け継がれてきました。いまは大きく二つの流派に分かれます。

素ながらも武家の流派らしく、厳しい精神鍛錬の道を継承しています。

香道の世界では、香木は、その含有樹脂の質と量の違いから、伽羅、羅国、真那賀、真那蜜、佐曾羅、寸聞多羅、の六種に分けられ、香木の香質を味覚に例えて「辛」「甘」「酸」「鹹」「苦」の五味に分け、それらを総じて「六国五味」といいます。

香木といっても、木そのものが香りを放つのではなく、自然に枯死したり、バクテリアによって朽ちた木の樹脂が土中に埋もれている間に木質に沈着し、それを熱すると香気を発します。香木は天然の貴重なものですから、香を聞く場合は、香木を必要最小限に小さく切り、火種と香木の間に薄い雲母の板を挟んで、熱を均一にしてその香気のみを觀賞します。貴重で微細な香りを聞く（味わう）には、清澄な風土と日本人の細やかな精神が不可欠であることは、香道文化が、日本独自の言い切れる根幹だと思っています。

一方の、八代將軍足利義政の近習、志野宗信を流祖とし、現在、幽光斎宗玄家元の「志野流」は、木地の香道具に、簡

作法動作は「静」、お香の「幽玄」な香りは一千年の時を越えても変わっていません。初めての「組香」の御香席で、季節感を味わいながら香炉に手を添えた静寂の中で、私は、お香のとりことなり、以来約半世紀が過ぎました。

昨今はネットのホームページで、「香道」についても瞬時に手軽に学べ、知識の吸収はとても便利になりました。しかし、「香りを聞く」ことはICTでは叶いません。

透明な涼しさ

梅雨に入り曇り空が続き爽やかな青空が恋しい季節です。こんな時季涼しそうなお菓子が欲しいですね。つるんとした羊羹や透明感のある寒天やゼリー、わらび餅やところてんも涼しさを誘います。和菓子はそれに見た目も加えて涼しさアップです。

今回のお菓子は香西にある菓匠柴山の「風薫るあゆ」。しっとりとした豆乳カステラで金団(きんとん)をはさみ、その上に涼しい景色が描かれています。あっさりとした豆乳カステラに情景を表した羊羹の優しい甘さが加わりさっぱりとしていて、名前の通り初夏の風を感じさせてくれる和菓子です。

この季節はどこ
の和菓子屋さんで
もそれぞれ工夫さ
れた夏の和菓子が
そろいます。涼
を探しにめぐると
もいいかもしれま
せんね。



お茶の風景(12)

笈の香炉

歌舞伎勧進帳、安宅の関。山伏姿に身をやつした義経主従が富樫の温情で無事に関所を通過して、再び奥州平泉をめざす…。幕が引かれ、最大の見せ場、見得を切った弁慶が勇壮な飛び六方を踏みながら花道に消えて行きます。

この時に弁慶が背負っていた笈(笈摺)は山伏が不動尊像や法具などを入れる収納庫で、前面に扉、四隅に聖脚(せいこく)を付け、材も簡素な素木や荘厳な装飾を施したものでいろいろ。その形を模した精緻で華麗多彩な香炉を栗林公園の花園亭で拝見しました。高松藩お庭焼として京都から迎えられた初代理平(理兵衛)の作で、天蓋は修験者が使う法螺貝の形。上部の透かし模様や貝の口から雅な香りが立ち上るさまは思うに美しく、清浄な漂いだったことでしょう。

古い時代には、茶道具を仕込んだ二つの笈を棒竿で振り分け担いで持ち歩き、行楽地などの路傍で茶を売る荷茶屋があったそうです。



財団行事予定(6月~8月)

6月

新型コロナウイルス感染拡大防止のため
6月1日~30日まで休館とし、財団行事はすべて中止させていただきます。

7月

- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日
森本義人先生
7月2日(金)・16日(金) 午前10時~12時
- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
7月6日(火) 午前11時~午後3時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日
高橋初乃先生
7月9日(金) 午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
7月10日(土)・24日(土) 午後1時~

◆ 7月月釜 五人様茶会

古代バラモンの教えに“汝問い過ぎることなかれ”という戒めがございます。もちろん我々亭主にとって問われて困るのは“聖域”などではなく単なる知識不足にすぎません。このような私共ですが何より御来席お待ちしております。

日時 7月11日(日)
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
濃茶 武者小路千家 三好宇太郎
薄茶 武者小路千家 竹井守恵
茶席 濃茶・薄茶・点心席
会費 5,000円

入席時間(各席2時間15分を予定)

第1席 A席・B席 9時
第2席 A席・B席 10時30分
第3席 A席・B席 11時15分
第4席 A席・B席 12時45分
第5席 A席・B席 14時15分

申込受付 6月11日(金)午前10時より
但し水曜日と6月中の土日を除く

◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日

7月20日(火) 午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にお出掛け下さい。
ランチは要予約です。

◆ あ・うんの数寄講座

「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」
7月25日(日) 詳細は最終ページに記載

8月

◆ あ・うんの数寄講座

「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」
8月1日(日)・8日(日)・22日(日)・29日(日)
詳細は最終ページに記載

◆ 書道教室 森本義人先生

8月6日(金)・20日(金) 午前10時~12時

◆ ヤングヤング 山下純子先生

8月7日(土)・28日(土) 午後1時~

◆ 夏季休館 8月12日(木)~15日(日)

◆ 和菓子講座 高橋初乃先生

8月20日(金) 午前10時~12時

◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日

8月はお休みさせていただきます。

<由佐城月釜茶会> 茶会7日前までの予約制(前売券)
第2研修室(和室) 500円 9:30~(全6席)
6/20 席主:三野宗綾(讃岐清水派石州会松岡宗愛社中)
7/18 席主:三好宇太郎(武者小路千家)
8/15 席主:川原宗津(伝統文化香川町子ども茶道教室)

6/9、10 季楽茶会(予約制) 席主:山本守嶋(武者小路千家)
料亭二蝶 6,000円 10:00~(全4席)
7/9~11 風鈴茶会(予約制) 席主:山本守嶋(武者小路千家)
栗林公園日暮亭 12,000円 6:30~(各日3席)
8/7~9 芙蓉茶会(予約制) 席主:山本守嶋(武者小路千家)
栗林公園掬月亭 6,000円 6:30~(各日5席)

あ・うんの数寄講座

第7回 「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」

本年度の夏期講習の日程が決まりましたのでご案内致します。
昨年と同様、感染防止対策を考慮し開催いたします。

日程と内容



第1回 7月25日(日)

土田 半四郎(千家十職 茶入袋師)

「袋師の仕事」



第2回 8月1日(日)

久住 誠(左官職人 株式会社久住左官代表)

「左官と数寄」



第3回 8月8日(日)

重根 弘和(岡山県立博物館学芸員)

「備前のある場所 — 取り合わせの魅力 —」



第4回 8月22日(日)

小田 宗達(御茶道具 小田商店株式会社 代表取締役社長)

「茶の湯の名物茶碗」



第5回 8月29日(日)

熊倉 功夫(MIHO MUSEUM 館長)

「利休・織部・三斎・遠州の咄」

会場 財団茶室「晴松亭」広間

時間 午前の部 10時30分～、午後の部 14時～の2回

定員 各回20名

会費 10,000円(5回セット券) 高校・大学生は5,000円

申込 6月25日(金) 午前10時より受付開始(但し水と6月中の土日を除く)

参加ご希望の方は、事務局までお申込み下さい。

お申込みの際は、午前か午後のどちらかのコースをお選び下さい。

令和3年度

助成金交付団体決定

今年度の助成金は、10団体からの申請があり、
審議の結果、第28回中條文化振興財団助成金交
付団体に次の3件が決定いたしました。

助成金交付団体

① Eclogion 代表 三木 優希

コンテンポラリーダンス公演

「dilemme」の開催

② 讃岐源之丞保存会 代表 三好 良夫

讃岐源之丞定期公演の開催

③ 富田 紀久子

借耕牛(かりこうし)の史実を伝承するため
「本」の製作・寄贈

来年度の助成金申請は、年度を通して受付けてお
ります。詳細は、財団ホームページにてご確認い
ただくか、事務局までお問合せ下さい。

応募期限は、令和4年1月31日

令和3年度 財団賞推薦募集

詳細は、財団ホームページをご覧頂くか、
事務局までお問い合わせ下さい。

提出締切 | 令和3年6月30日

編集後記

最近、「おうち時間」が増えたこと
についてのニュースを多く聞きま
す。DIYに挑戦・楽器の購入者が
増加傾向にある・ペットの動物がよ
く売れている・料理にはまっている
等々。一人で頑張らなくてはいいけ
ないこともあるけれど、家族で下調べ
をしたり計画をたてたり、楽しみな
がらできることもあります。外出や
行動を規制されている今日、眩くよ
りも明るく過ごしたいと思っています。

県下でも感染者の増加で警戒レベ
ルにあるため、5月1日より休館し
ていましたが、6月末まで延長する
ことにいたしました。そのため財団
主催の行事等はすべて中止となりま
す。皆様方にはご迷惑をおかけいた
しますが、どうぞご理解いただきま
すようお願い申し上げます。
一日も早く、この災いが終息する
ようにと祈りつつ。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団編集部

TEL(087)826-3355

FAX(087)826-2212

info@chujo-zaidan.or.jp